

いつもと違う生活リズムと世の中の流れに なんとなく巻き込まれている「田舎の進学校」に おける夏休み(?)を前にアドバイス

——ホントはもう夏休み。なのに、定期考査を一度終えただけだ。1年生はここで自分の実力と甘さを知り、改めて会津高校での生活リズムを構築する。テストの結果を受けて、担任との面談もあったりする。通常ならそれは5月下旬。結局「2か月」時間が遅れている。なんか、おかしい。1回目の考査を終えても、3年生は部活動の総仕上げがあったり、学而祭の準備に追われたりして活動意欲に満ちあふれる。なのに、さしたる行事もなく、いつのまにか7月が終わろうとしている。これまでになかった時間の流れだ。

——さてさて、会津高校の夏休みはもともと短い(無い)。本来なら、関東以西のように8月いっぱい十分に休んで9月から新学期といきたいところだ。欧米では6月に学年終了、9月に新学年がスタートするまで2ヶ月以上の長い休みが当たり前。なのに、なんだあ!このクソ暑い時期に、補習・土曜講座・模試だのほとんど休みがな〜い!しかも今年は、コロナ休校のおかげで通常授業日が追加でどお〜ん!!(涙涙)



——しかし、グダグダ現状に不満を漏らしても、コロナ終息のめどが立たない以上どうしようもない。ここは冷静に今やるべきことに全力を注ごう!

3年生諸君: ● 共通テストの新たな概要が発表されている。各科目の出題内容や配点・時間については、前年度までの決定から変化はないが、実施日程等、コロナの動きに応じて先生方と情報を共有・確認の必要がある。今後の情勢に注意を払おう。

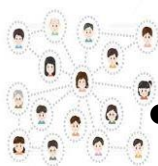
● また、AO(総合選抜型)入試は例年より2週間程ずれた形での実施をうたう大学が多く、推薦(学校推薦型)入試は日程にあまり配慮が見られない。こちらはその大学・学問系統に対してどれくらいの「資質」があるのか、自分を客観的に見る力が必要だ。十分な根拠のない自己主張では、学力アップの時間を無駄にするばかりでなく、母校の名誉を傷つけることにもなる。よ〜く考えて!



● 長期の休みを利用してオープンキャンパスに足を運んだりすることも大切。しかし、今年は仕方がない。身近な所在地なら、周辺に出向いて雰囲気味わうだけでもいい。無理な場所なら、HP 大学案内などを利用して、そこで生活し学んでいる自分をイメージしよう。

● 三者面談が始まっている。この時期、志望の方向性確認が主になるだろう。もともと進路志望が具体化しているなら、受験方法や目標レベルの目安を確認。まだまだ「なんとなく」の段階なら、次の面談までの考え方を確認。いずれにせよ、自分の人生の節目を決めるわけだから、親や先生に頼るのではなく、会高生らしく主体的な姿勢で臨むことが大切だね。

2年生諸君: ● 中堅学年は、「もっとも動ける」学年でもある。高校生活のリズムは確立し、自分らしいペースで学習に取り組む。進路目標も少しずつ具体化し、力を入れるべきこともわかってくる。それにより、ますます 日常の活動意欲が増して、自ら学校生活を楽しむことができる。



——というのが理想。

● 3年生の多くが引退し、部活動でも中心的役割を担うようになっていく。8月後半からは各種目で新人戦も本格化する。自分を見つめ客観的に理解し、進路選択に役立つように、この状況下で可能な限りさまざまな活動に取り組もう。

- 今年度第1号にもあるように、「進路目標や達成方法の具体化」にも努めてほしい。進路の方向性が何となく見えてきたら、その達成手段をイメージしよう。大学進学がメインだから、大学・学部・学科・試験方法を調べるのは基本中の基本だね。
- でも、なかなか意識が高まらない人は多いよね。まあ、すでに文理分けをしたクラスにいるわけだけど、それだけで最終的な進路の方向性を絞る必要はない。大切なのは、自分の特性をどんな形で生かすことが社会貢献につながるのか気づくことだ。広い世界にはその「気づき」が早い人もすごく遅い人もいる。自分にはまだまだ難しいと思うなら、「どうしていいのかわからない」などと言い訳をせず、とりあえず目の前の学習やその他の活動に全力を注いで「気づき」につなげることだ。

1年生諸君：●初めての定期考査を終えて、自分の甘さに気づいた人も多いだろう。部活動との両立に悩み始めた人もいるだろう。第2号にもあるように、それは若さの特権だ。悩んでいい。悩みながらも常にプラス思考で自分という人間を客観的に評価すること。第1号で述べた1年生の進路段階目標「自分を知ること」につながる。



「やっぱり人間相手の仕事がいいよなあ」「この分野を専門に研究してみたい」

「アイデアを生み出すのが好き」「ものづくりでしょ」「体が資本かな」「芸術！」

「結構リーダーシップいけるんじゃないか?」「地道に事務仕事かな」——などなど。

高校生活のリズムを徐々に確立しながら、進路目標設定につなげていこう！物事を単純にとらえることも大切だし、2学期からの生活にさらに前向きに取り組むためにも、プラス思考は必須アイテムだ！

- すでに文理選択のガイダンスを受けているわけだが、そこでもアドバイスされたように、さまざまな進路の道筋や世の中の仕組みを知ることが進路目標設定の基本となる。会高生らしく、ガイダンスを生かしてさらに自分で探っていく姿勢がほしい。実際、進路決定ばかりでなく、人生を生き抜く中で主体性の欠如から「知らないまま」いたことを後悔するケースが多いのだ。

会高生諸君：◎受験の常識だからすでにわかっていると思うが、田舎の高校は予備校の代わりをしなければならない。会津盆地を取り囲む山の向こうには、各学年数十万人のライバルがいる。進学校と呼ばれる高校の多くは人口集中地域にあり、当然、そこには数々の塾や予備校がある。受験を控えた高校生は、長期休業中（平日もそうだが）志望実現のためにそれを利用する。田舎は違う。会高生や他校の進学希望生徒をまるまる引き受けられるところはない。だから、学校がやる。全国に目を向けると、なかには「補習科」と称して高校4年生(=浪人生)が通う公立校もあったりする。みんな、都市部に負けないように頑張っているのだ。そう、長い休みの過ごし方こそ、会津高校の教師と生徒のチームワークの見せ所なのだ！



さあ、こういった環境を理解した上で、田舎の進学校の生徒であることを誇りにできるよう、先生方や仲間たちと気持ちを一つにして、夏を乗り切ろうじゃないか！それぞれが、進路実現のために必要なことを発見、自覚し、少しでもそれを実践するべく努力するのだ。そんなに明確化しなくてもいい。意義づけができればいいだけだ。

それが、「主体的に」行動する姿勢なのだから。